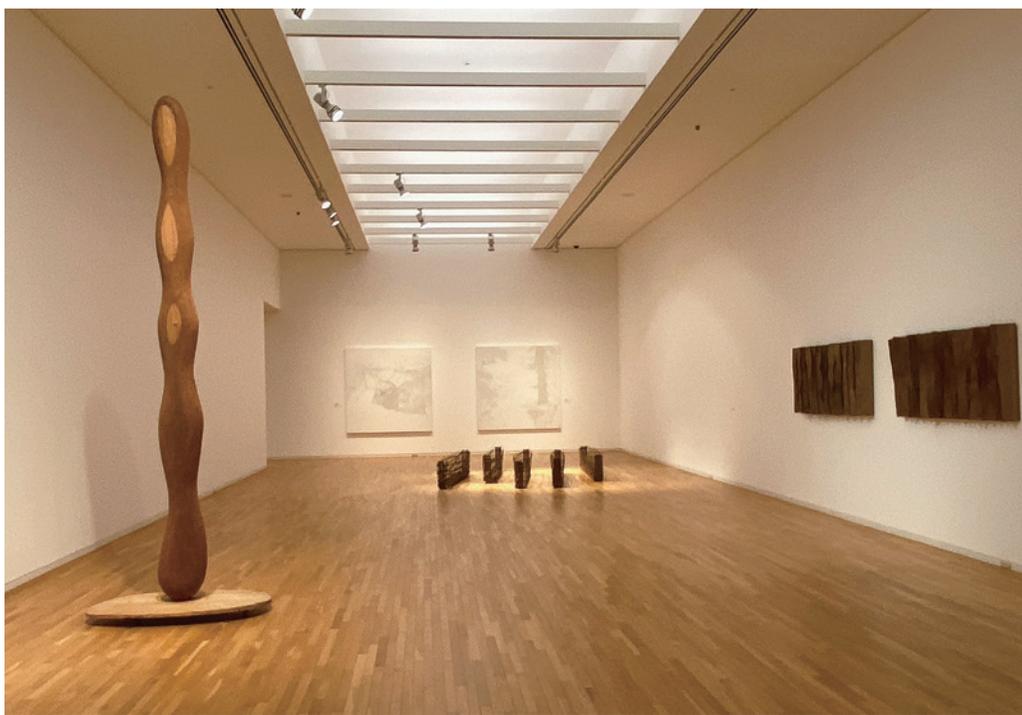


Digest of Science of Labour
労働の科学

2024
February
Vol. 79, No. 2



曲線のカチ / 菅沼 緑

特集

熱中症対策でより良い環境の構築を

夏期の農作業における被服環境について / 松岡敏生
わが国における熱中症の予防と対策 / 星 秋夫

連載

「#教師のバトン」で伝わる教職員の過酷な勤務環境 ③⑩

藤川伸治

軽労働化で農業の再生 ④

宇土 博

労研アーカイブを読む ⑨⑫

椎名和仁

タイプライターの歴史とタイピスト ②

三宅章介

ILOインド南アジア産業安全保健通信 ⑬

川上 剛

巻頭言

世の中の半歩先を行く

濱野 潤

労働の科学

2024
February
Vol. 79, No. 2

巻頭言

俯瞰 (ふかん)

世の中の半歩先を行く

1

濱野 潤 [大原記念労働科学研究所 理事長]

表紙作品：菅沼 緑「曲線のカタチ」

材料：木材

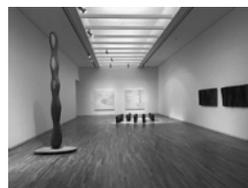
制作：1996年

会場：岩手県立美術館常設展示

年度：2022年

撮影：菅沼 緑

表紙デザイン：大西文字



熱中症対策で より良い環境の構築を

夏期の農作業における被服環境について

..... [公益財団法人 三重県産業支援センター] 松岡 敏生 4

わが国における熱中症の予防と対策

..... [日本生気象学会元学会長] 星 秋夫 10

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信 (14)

参加型ツールの重要性

スリランカのココナッツプランテーションにおけるトレーナー養成ワークショップ..... 川上 剛 15

「#教師のバトン」で伝わる (30)

教職員の過酷な勤務環境..... 藤川 伸治 18

軽労働化で農業の再生 (4)

農業における肩関節痛と上肢拳上負荷の軽減対策—果実の位置を変える,
アームリフト対策

各論第3回..... 宇土 博 21

Series

労研アーカイブを読む(95)

航空生理訓練 椎名 和仁30

タイプライターの歴史とタイピスト(2)

—英文タイプライターの発明と名称の変遷について— 三宅 章介37

Column

自由と想像(14)

曲線のカタチ 菅沼 緑43

Talk to Talk

知恵を得て 肝付 邦憲 44

労働を科学する

企業不正・不祥事と労働科学 坂本 恒夫46

第97回日本産業衛生学会に参加して

産業保健領域における私のアイデンティティ 酒井 一輝53

BOOKS

『長崎偉人伝 長与専斎』『奏鳴曲 北里と鷗外』

衛生行政の大切さが分かる2冊 椎名 和仁57

『アンエイジング』

老いはむしろチャンスである 千葉 百子58

労働科学のページ59

ろうけん川柳63

次号予定・編集雑記 64

世の中の半歩先を行く

濱野 潤

労働科学研究所ではかねてより「世の中の半歩先を行く」を志して活動を続けてきた。

今から10年ほど前になるが、労働科学セミナーが開催された折隣り合わせた櫻井治彦先生（慶應義塾大学名誉教授）にご挨拶した際、「労働科学研究所は世の中より半歩先を行くを合言葉にしておられるが、一歩先ではなく半歩先というのが良いですね。」と声をかけていただいたことを覚えておる。一歩先と言えればカッコイイのだが、なかなか難しいので何とか半歩でも先にと悪戦苦闘しているのが労研らしいと励ましていただいたのだろうと思つた。

最近またこの言葉に出会って、思いを新たにした。政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会会長をつとめた尾身茂氏の手記『1100日間の葛藤』の中の一節である。この本では新型コロナパンデミックに直面して集まった専門家たちが時間とデータの制約の中で政府に対し様々な提言を行うなど格闘した経緯がまとめられている。その中で、合理的で説得力のある提言書を出すために気を付けたポイントの一つとして、「状況よりも半歩進んだ提言を出す」があげられている。国は確証や前例がないと政策を打ち出せないことも多く、どうしても動きが遅れがちになる。だが、問題が誰の目にも明らかになってから対策を検討するのは

遅すぎる。半歩先になが起るかをよく考え、問題が深刻化する前に先手を打つことが重要だ、と尾身氏は書いておる。

世の中の半歩でも先に行くことは至難の技であり、方法論などない。ではどうしたらよいのか？ 三つのことを考えた。

第一は歴史に学ぶことだ。将来を考えるとときには過去を振り返ることから始めるのが鉄則だ。歴史はそのためにある。

労働科学は100年の歴史がある。2011年度から労働科学の学術記録を「労研デジタルアーカイブ」に収集保管する事業を文部科学省特定奨励費によって進めてきた。現在、学術誌「労働科学」3375論文、普及誌「労働の科学」633号が収納されており、誰でも利用可能な状況になっている。コロナパンデミックにより2021年度から3年間はこの事業は中断を余儀なくされたが、2024年度からは文部科学省特定奨励費を改めて獲得することができ、事業を再開することになった。「労働科学叢書」111巻のデジタル化等を計画しているが、この知の貯蔵庫を大いに活用して行きたい。

第二は現場に学ぶことだ。変化の激しい時代に世の中で今起きていることを知ることは大変な努力を必要とする。幸い、「現場に学び、現場で答えを出す」が労



はまの じゅん
大原記念労働科学研究所 理事長

研の伝統である。労研を支えてくださっている維持会には多くの企業・団体があり、これらは現場の塊と言っても過言ではない。日々様々な問題に直面し、格闘されている維持会の皆様とともに学んでいきたいと考えている。

第三は専門分野を磨くのは当然として、関連する様々な学問分野から学ぶことだ。労働科学は自然科学、人文科学、社会科学にまたがる総合科学であり、学際的なアプローチが特徴である。自分の専門分野に閉じこもることなく広く関連する学問分野の動向にアンテナを張り刺激を受けることが欠かせない。その意味で発足4年目を迎える日本労働科学学会の活動は貴重なものである。

上記の三つは労働科学を志す者にとつては常日頃から心掛けておきたいことだが、全うすることは容易ではない。志を忘れず日々研鑽していききたい。



俯瞰 ぶんかん